

賑賑 小笠高校竹灯籠づくりワークショップ わいづくりは竹灯籠づくりから



1 放置竹林の現状について理解を深める 2 図柄に合わせてドリルで穴を開けていく
3 ガスバーナーで表面をあぶって仕上げる 4 おばけやカボチャなど、ハロウィンらしい図柄が浮かび上がる

9月2日、小笠高校で「竹灯籠づくりワークショップ」が開催され、3年生26人が参加しました。NPO法人アートコラールきくがわが、高校生にまちづくりや、里山を荒廃させる放置竹林の現状に関心をもってもらうことを目的に、同校と協働して実施。NPO法人里山再生クラブと市民活動団体たねあかりのメンバーに教えてもらいながら竹灯籠づくりにチャレンジしました。黒猫やカボチャなど、ハロウィンをイメージしたデザイン画の上から、ドリルで大小の穴をあけて1時間ほどで作り上げました。

生徒が作った竹灯籠は10月30日(土)の「灯りの散歩道」イベントで使用されます。

※灯りの散歩道の詳細は、P23をご覧ください。

こ 敬老会長寿表彰対象者記念品贈呈 れからもお元気で！

新型コロナウイルス感染症の影響により敬老会が中止となったため、100歳以上の高齢者55人に市長直筆の色紙などの記念品を贈呈しました。

訪問希望者の中で最高齢の104歳となる小田^{ひさお}久雄さん宅(半済)には、9月16日に長谷川寛彦市長が訪問。市長から「笑う門には福来る」と書かれた直筆の色紙とお茶やお菓子などの記念品が手渡されると、小田さんは笑顔で受け取りました。長寿の秘訣は、「好き嫌いせずになんでも食べることです」と元気に答えてくれました。



▲色紙を手に笑顔の小田さん(左)

1 JA遠州夢咲管内秋摘み茶の一斉手摘み 日限定の手摘み茶

9月7日、JA遠州夢咲管内の30茶工場が1日限定で秋摘み茶の手摘みを行いました。

半済地内にある茶園では、菊川中央茶農業協同組合員およそ10人が手摘みを行い、「一芯二葉」で丁寧に茶葉を摘み取りました。

秋摘み茶は、秋口に芽吹く葉で作られ、さわやかな風味が特徴。この日摘み取られたお茶は、京浜方面へ出荷されたほか、市内2カ所のJA茶直売所で販売されました。



▲秋晴れの空の下、丁寧に茶葉を摘み取る